

キャラクター名
鬼霧勝

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス		ワークス	レネゲイドビーイングA	カヴァー	高校生
	ハヌマーン					
オプション			年齢	18歳	性別	男
覚醒	渴望	衝動	破壊		初期侵食率	42%
出自	義理の両親		経験	トラウマ	邂逅	師匠

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	35
肉体	2	1	0	3		6	行動値	7
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	7
精神	3	0	0			3	戦闘移動	12
社会	1	0	0			1	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃	1		RC			交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転：二輪	1		芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
鬼切りの古太刀	白兵	6r+3	3	10		ダメージでEロイスを一掃解除。ジャームを嫌悪する。侵食率基本値+4

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ:UGN幹部	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Eロイス:遺産継承者:鬼切りの古太刀	P	N		
義理の両親	P 誠意	N 隔意		
玉野椿	P 尊敬	N 無関心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2 残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト:ハヌマーン	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：	C値-LV							
音速攻撃	3	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：	判定D+LV個							
獅子奮迅	1	4	メジャー	武器	範囲(選択)	対決	-	
効果：	対象を範囲(選択)に変更							
さらなる波	5	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果：	攻撃力+[LVx2]							
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	自動	RB	
効果：	衝動判定D+LV個、侵食率基本値+5							
オリジン:ヒューマン	1	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果：	シーン間、判定達成値+LV							
軽功	★	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	どこでもはしれる							
真偽感知	★	2	メジャー	視界	単体	自動	-	
効果：	おみとおし							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「わかる……わかるさ、力の使い方も、奴らの壊し方も。だけど、こんな駆を持って、こんな力を持って……それでも、満たせないんだよ……！！」

3年B組の鬼霧勝（きぎり まさる）は少し変わった男子生徒だった。幼くして両親を交通事故で亡くし、義理の両親に引き取ってもらい暗めな雰囲気を持ったが滞りなく元気に育って行った。しかし高校一年生のある日、あの事件が起こった。V市最悪のレネゲイド関連事件として知られる『鬼ヶ島事件』。突如十数体のジャーム達がV市近郊の山岳から押し寄せ、わずか3時間でV市の人口の1/5が死亡した。そして彼もこの事件の被害者となった。帰り道、逢魔時と呼ばれる夕闇が辺りを包む頃、目の前に現れた巨躯のジャームから、彼は必死で逃げた。逃げた先は市街から離れた古びたお堂。子供の頃は雰囲気が好きではなく、避けていた所だったが、人目に付かず、隠れた場所にあったそこに彼は隠れた。しかし、ジャームは甘く無かった。彼はとうとう見つかりお堂の最奥へと追い詰められた、その時だった。最奥に封じられていた古びた太刀が言葉を発したのだ。

「憎いか、怪物が。欲しいか、力が。惜しいか、現世が」
「当たり前だ……奴らが憎い！生きて、奴らを倒せる力が欲しい！！」
「ならば抜け！古に封じられたこの私を——！！」

彼は得体の知れぬ声に言われるまま、古太刀を抜いた。その瞬間、古太刀からレネゲイドの激流が押し寄せ、彼はオーヴァードに覚醒した。そして死に物狂いで古太刀を振り、目の前のジャームを斬殺した。とても覚醒したてのオーヴァードの力ではなかった。先ほどの声は古太刀から発せられ、彼に更にジャームを狩るよう命じた。彼は拒まなかった。ジャームを破壊したい衝動に吞まれていたし、何より自分の生まれこの街を呑みこんだ怪物達が許せなかった。

だが、四体目のジャームを倒した時だった。突然彼はレネゲイドの負荷に耐えられなくなり、その場で気絶してしまっ。いくら古太刀の力があるうとも、彼はまだ覚醒したばかりのオーヴァード。ここまで戦っただけでも奇跡と言える。だが無慈悲にもそこへ異形のジャームが通りかかり、気絶したままの彼をいとも簡単に切り刻んだ。

度重なる戦闘と侵食で彼の再生能力は激減し、最早いつ死んでもおかしくはなかった。古太刀も力を失いかけていた。古太刀は考えた。今ここで自分が死ぬのは嫌だ。勝を死なせるのも惜しい。ならば両方が生きる道を選ぼう。